



Interstage Data Effector



インストールガイド

Linux

J2UL-1050-01Z0(A)
2008年11月

まえがき

本書の目的

本書は、Interstage Data Effector(以降、Data Effector と略します)が提供するインストールの方法およびアンインストールの方法について説明しています。

本書の読者

本書は、以下の読者を対象としています。

- Data Effector をセットアップする人

前提知識

本書を読むためには、以下の知識が必要です。

- Linux に関する知識

本書の構成

本書は以下の構成になっています。

第 1 章 インストール前の準備

Data Effector をインストールする前の準備について説明しています。

第 2 章 インストールおよびセットアップ

Data Effector のインストールおよびセットアップの手順について説明しています。

第 3 章 アップグレード

Data Effector をアップグレードする手順について説明しています。

第 4 章 アンインストール

Data Effector をアンインストールする手順について説明しています。

製品名の表記

本書では、以下の製品名称を略称で表記しています。

略称	正式名称
Data Effector	Interstage Data Effector Standard Edition

略語の表記

本書では、以下の略語を使用しています。

略称	製品名称
Linux	Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for x86)、 Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for x86)、 Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for EM64T)、 Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for EM64T)、 Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86)および Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64)

略称	製品名称
32 ビット用 Data Effector	Linux Interstage Data Effector Standard Edition V9.1.0
64 ビット用 Data Effector	Linux Interstage Data Effector Standard Edition for x64 V9.1.0

製品のバージョン表記

Data Effector の各マニュアルでは、特に断りがない限り、以下のバージョン表記を使用しています。

バージョン表記	対象製品バージョン
V9.1 系	Linux Interstage Data Effector Standard Edition V9.1.0 または Linux Interstage Data Effector Standard Edition for x64 V9.1.0
V9.0 系	Linux Interstage Data Effector Standard Edition V9.0.0 または Linux Interstage Data Effector Standard Edition for x64 V9.0.0

商標

- Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
- Microsoft またはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
- Red Hat, RPM および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
- Interstage は、富士通株式会社の登録商標です。

その他の会社名および製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

輸出管理規制

本ドキュメントを輸出または提供する場合は、外国為替および外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとりください。

著作権

Copyright FUJITSU LIMITED 2008

平成 20 年 11 月 初版

目次

第1章 インストール前の準備.....	1
1.1 基本ソフトウェア.....	1
1.2 関連ソフトウェア.....	1
1.2.1 アプリケーション開発環境の情報.....	1
1.3 排他ソフトウェア.....	1
1.4 必須パッチ.....	1
1.5 必要なハードウェア.....	2
第2章 インストールおよびセットアップ.....	3
2.1 インストール.....	3
2.2 環境変数の設定.....	4
2.2.1 コマンド利用時に必要な環境変数.....	4
2.2.2 C API 利用時に必要な環境変数.....	5
第3章 アップグレード.....	6
3.1 V9.0 系からの移行作業.....	6
3.2 アップグレード.....	6
第4章 アンインストール.....	7
4.1 アンインストール.....	7
索引.....	9

第 1 章 インストール前の準備

本章では、インストールする前の準備について説明します。

1.1 基本ソフトウェア

Data Effector を使用する場合、以下の基本ソフトウェアが必要です。

32 ビット用 Data Effector

- Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for x86)
- Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for x86)
- Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for EM64T)(注)
- Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for EM64T)(注)
- Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86)
- Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64)(注)

注) 32 ビット互換モードで動作します。

64 ビット用 Data Effector

- Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for EM64T)
- Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for EM64T)
- Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64)

1.2 関連ソフトウェア

Data Effector の各機能を使用する場合の関連ソフトウェアを説明します。

1.2.1 アプリケーション開発環境の情報

Data Effector が対応するアプリケーション開発環境の情報を以下に示します。

以下が必要です。

- gcc およびその他関連パッケージ (注)

注) OS 製品で提供されているコンパイラだけ動作保証しています。

1.3 排他ソフトウェア

特にありません。

1.4 必須パッチ

特にありません。

1.5 必要なハードウェア

Data Effector をインストールするには以下のハードウェアが必要です。
インストールに必要となる空きディスクがあることを確認してください。
空きディスクが不足している場合は、該当するファイルシステムのサイズを拡張してください。

- メモリ : インストール対象の OS が推奨するメモリの容量
- CD-ROM 装置
- ハードディスク : 8.3 メガバイト以上

ディレクトリ	ディスク容量 (単位:メガバイト)
/	0.0
/usr	0.0
/var	0.1
/home	0.0
/opt	8.2

注意

.....

上記は Data Effector のインストール時に必要な容量です。

.....

参照

.....

Data Effector を動作させるために必要な資源については、“ユーザーズガイド”の“メモリ見積り式”を参照してください。

.....

第 2 章 インストールおよびセットアップ

本章では、Data Effector のインストールおよびセットアップの手順について説明します。

2.1 インストール

準備ができれば、Data Effector をインストールします。

インストールの手順を以下に説明します。



- インストールは、“スーパーユーザー”が行ってください。
- Red Hat Enterprise Linux 5 で自動マウント(autofs)を使用している場合、マウントオプションに“noexec”が設定されインストーラなどの実行ファイルの起動に失敗する場合があります。CD-ROM をアンマウントして、手動でマウントしたあとに、再度実行してください。なお、設定されているマウントオプションは、mount コマンドにて確認できます。

1. Data Effector のインストールスクリプト(cmdinstall.sh)を起動します。
(マウントポイント/media/cdrom は、お使いの環境にあわせて変更してください)

32 ビット用 Data Effector の場合

```
# mount -t iso9660 -o ro /dev/cdrom /media/cdrom
# cd /media/cdrom/redhat_x86
# ./cmdinstall.sh
```

64 ビット用 Data Effector の場合

```
# mount -t iso9660 -o ro /dev/cdrom /media/cdrom
# cd /media/cdrom/redhat_x64
# ./cmdinstall.sh
```

2. 表示された情報でインストールを開始する場合は、y<RETURN>を入力します。

```
-----
Interstage Data Effector
V9.1
All Rights Reserved, Copyright(c)
FUJITSU LIMITED 2007-2008
-----

Install information:

Installation package:

FJSVshnde

Do you want to proceed with the installation ? [y,q]:
```

インストール処理が開始されます。

```
Installation of package has started.  
  
Installation of <FJSVshnde> was successful.  
  
Installation of package has ended.
```

上記の処理において、何らかの異常が発生した場合、以下のメッセージが表示され、インストール処理が中止されます。

```
Installation of "Interstage Data Effector" was terminated.
```

インストールの終了メッセージが表示されます。

```
Installation of "Interstage Data Effector" was successful.
```



注意

Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for EM64T)、Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for EM64T)、または Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64) において、32ビット用 Data Effector をインストールする場合、最初に以下のメッセージが表示されます。インストールを続行する場合は y を入力してください。

```
You are going to install the 32bit program on the operating system for Intel64.  
Do you want to proceed with the installation ? (default n) [y,n]
```

2.2 環境変数の設定

Data Effector を使用する上で必要な環境変数を説明します。

2.2.1 コマンド利用時に必要な環境変数

Data Effector のコマンドを使用するうえで必要な環境変数を設定します。

- 環境変数 LANG は、サーバの文字コード系に合わせて以下を設定します。

文字コード系	指定値
UTF-8 環境の場合	ja_JP.UTF-8
英語環境の場合	C

- 環境変数 PATH に /opt/FJSVshnde/bin を追加します。

以下に、環境変数の設定例を示します。

例 1

bash、B シェルまたは K シェルの場合


```
LANG=ja_JP.UTF-8 ; export LANG
PATH=/opt/FJSVshnde/bin:$PATH ; export PATH
```

例 2

C シェルの場合

```
setenv LANG ja_JP.UTF-8
setenv PATH /opt/FJSVshnde/bin:$PATH
```

2.2.2 C API 利用時に必要な環境変数

Data Effector の C API を使用するのに必要な環境変数を設定します。

- ・ 環境変数 `LD_LIBRARY_PATH` に `/opt/FJSVshnde/lib` を追加します。

以下に、環境変数の設定例を示します。

例 1

bash、B シェルまたは K シェルの場合

```
LD_LIBRARY_PATH=/opt/FJSVshnde/lib:$LD_LIBRARY_PATH ; export LD_LIBRARY_PATH
```

例 2

C シェルの場合

```
setenv LD_LIBRARY_PATH /opt/FJSVshnde/lib:$LD_LIBRARY_PATH
```

第3章 アップグレード

本章では、Data Effector をアップグレードする手順について説明します。

3.1 V9.0 系からの移行作業

V9.0 系からの移行作業について説明します。

移行対象製品

V9.1 系への移行対象となる製品を以下に示します。

分類	移行前の製品	移行後の製品
V9.0 系から V9.1 系へ移行	• Linux Interstage Data Effector Standard Edition V9.0.0	• Linux Interstage Data Effector Standard Edition V9.1.0
	• Linux Interstage Data Effector Standard Edition for x64 V9.0.0	• Linux Interstage Data Effector Standard Edition for x64 V9.1.0



互換については、“リリースガイド”の“互換に関する情報”を参照してください。

3.2 アップグレード

アップグレードの手順を以下に説明します。

1. 移行前の製品を、アンインストールします。



アンインストールの手順については、“4.1 アンインストール”を参照してください。

2. 移行後の製品を、インストールします。



インストールの手順については、“2.1 インストール”を参照してください。

第 4 章 アンインストール

本章では、Data Effector をアンインストールする手順について説明します。

4.1 アンインストール

アンインストールの手順を以下に説明します。



- アンインストールは、“スーパーユーザー”が行ってください。
- アンインストールする前に、Data Effector のアプリケーションを停止しておいてください。
- アンインストールを実行すると、Data Effector のインストールディレクトリの配下がすべて削除されます。退避が必要なファイルがある場合は、あらかじめ cp コマンドなどで退避しておいてください。
- Red Hat Enterprise Linux 5 で自動マウント(autofs)を使用している場合、マウントオプションに“noexec”が設定されインストーラなどの実行ファイルの起動に失敗する場合があります。CD-ROM をアンマウントして、手動でマウントしたあとに、再度実行してください。なお、設定されているマウントオプションは、mount コマンドにて確認できます。

1. アンインストールスクリプト(uninstall.sh)を起動します。
(マウントポイント/media/cdrom は、お使いの環境にあわせて変更してください)

32ビット用 Data Effector の場合

```
# mount -t iso9660 -o ro /dev/cdrom /media/cdrom
# cd /media/cdrom/redhat_x86
# ./uninstall.sh
```

64ビット用 Data Effector の場合

```
# mount -t iso9660 -o ro /dev/cdrom /media/cdrom
# cd /media/cdrom/redhat_x64
# ./uninstall.sh
```

2. パッケージのインストール状態のメッセージが以下のように表示されます。
アンインストールを行う場合は、y<RETURN>を入力します。

```
This program will remove "Interstage Data Effector" on your system.

The following package is installed.

    FJSVshnde

Is removal started?(default n) [y,n]
```

上記の処理において、何らかの異常が発生した場合、以下のメッセージが表示され、アンインストール処理が中止されます。

```
Removal of "Interstage Data Effector" was terminated.
```

アンインストールの終了メッセージが表示されます。

Removal of "Interstage Data Effector" was successful.

索引

[C]	
C API 利用時に必要な環境変数.....	5

[V]	
V9.0 系からの移行作業.....	6

[あ]	
アップグレード.....	6
アプリケーション開発環境の情報.....	1
アンインストール.....	7
アンインストールスクリプト.....	7
移行対象製品.....	6
インストール.....	3
インストールおよびセットアップ.....	3
インストールスクリプト.....	3
インストール前の準備.....	1

[か]	
環境変数 LANG.....	4
環境変数 PATH.....	4
環境変数の設定.....	4
関連ソフトウェア.....	1
基本ソフトウェア.....	1

[は]	
排他ソフトウェア.....	1
必須パッチ.....	1
必要なハードウェア.....	2